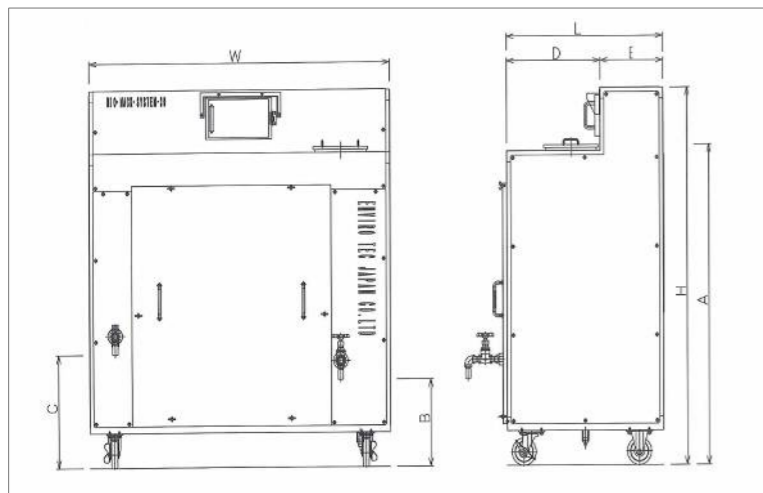


本、精製機は屋内・屋外仕様になっています。



BIO・MACK・SYSTEM-30装置仕様 【単位:mm】

符号	名称	寸法
W	装置巾	1250
L	装置奥行	650
H	装置高さ	1360
A	投入口高さ	FL+1170
B	廃油排出口	FL+320
C	精製油排出口	FL+415
D	投入口上面奥行	390
E	装置上面奥行	260
1	廃油タンク容積	30L
2	電源	3相200V
3	消費電力	1kw/h
4	処理時間	50分/バッチ
5	装置総重量	230kg
6	付属品	交換用フィルター1セット
7	オプション	自動投入装置

特許出願中

改正：省エネ法の概要

- 事業者単位(企業単位)で一定規模以上のエネルギーを使用している事業者
事業者全体(本社、工場、支店、営業所、店舗等)の1年度間のエネルギー使用量(原油換算値)が合計して1,500Kℓ以上であれば、そのエネルギー使用量を事業所単位で国へ届け出て、特定事業者の指定を受けなければなりません。

注1：事業者単位の範囲とは？

事業者単位の範囲は、法人格単位が基本となります。したがって、子会社、関連会社、協力会社、持株会社等はいずれも別法人であるために、別事業者として扱われます。

- フランチャイズチェーン事業等を行っている事業者
フランチャイズチェーン事業等の本部とその加盟店との間の約款等の内容が、経済産業省令で定める条件に該当する場合、その本部が連鎖化事業者となり、加盟店を含む事業全体の1年度間のエネルギー使用量(原油換算値)が合計して1,500Kℓ以上の場合には、その使用量を本部が国に届け出て、本部が特定連鎖化事業者の指定を受けなければなりません。

注2：連鎖化事業者とは？

定期的な約款による契約に基づき、特定の商標、称号その他の表示を使用させ商品の販売又は役務の提供に関する方法を指定し、且つ継続的に経営に関する指導を行う事業を行っており、次の(1)及び(2)の両方の事項を加盟店との約款で満たしている事業者をいいます。

- (1)本部が加盟店に対し、加盟店のエネルギーの使用の状況に関する報告をさせることができること。
- (2)加盟店の設備に関し、以下の指定をしていること。
 - ①空気調和設備の構成機種②冷凍又は冷蔵機器の機種③照明に係る機種④過熱及び調理機器の機種などの性能又は使用方法の指定

排出権取引とカーボンオフセットの違い

排出権取引とカーボンオフセットは、排出枠(排出権、クレジット)を用いることは共通していますが、似て非なるものです。排出権取引とは国際間や国の法制度等の規制下で、義務のために排出枠を調達、埋め合わせすることや金融資産として売買する行為を指します。一方、カーボンオフセットとは自社・自分が自発的に埋め合わせをしたい対象の活動を特定し、その温室効果ガスの排出量を算定し、算定された排出量と同量分の排出枠を購入し、それを他者に転売できないよう無効化することです。無効化によって権利を使い切ることで、はじめて自社・自分の排出した量の温室効果ガスの削減に貢献したと言えます。

国内クレジット制度の概要と目的

国内クレジットは、京都議定書目標達成計画(平成20年3月28日閣議決定)において規定されている。大企業等による技術・資金等提供を通じて、中小企業等が行った温室効果ガスは異質削減量を承認し、自主行動計画や試行排出量取引スキームの目的達成のために活用できる制度です。平成20年10月に政府全体の取組みとして開始されました。

本装置・仕様は予告なしに変更する場合があります

取扱代理店

ETJ 株式会社 エンバイロテックジャパン
〒221-0834
横浜市神奈川区台町17-6 森ビル3F
TEL : 045-620-0451
FAX : 045-620-0458

『バイオ マック システム』
BIO・MACK・SYSTEM

再生燃料
エコ・プロジェクト

ETJ 株式会社 エンバイロ テック ジャパン

◇バイオ マック システム精製機とは！

食用廃油の動粘度を低下させ狭雑物を除去し、水分を完全に取除いたカーボンニュートラル油を灯油、A重油の代替燃料として利用することで地球温暖化効果ガス的大幅削減が可能になります。

カーボンニュートラルとは

天ぷら油などの原料植物は光合成によって、大気中の二酸化炭素を吸収し成長するので、石油などの化石燃料を燃焼する場合と異なり、植物由来の原料や燃料を燃焼・分解しても、大気中の二酸化炭素の量は理論上変わらずカーボンニュートラルであるとの考え方は世界共通しています。

■ バイオマックシステム精製機の特徴

- 1, 石油系化学溶剤は一切使用しない。
- 2, 食用廃油を化学的反応などさせずに精製する。
- 3, ホテル、旅館等から排出される廃油の熱利用は自己完結できる。
- 4, 外食産業等の各事業所から食用廃油を収集し精製するプラント化が可能である。
- 5, 精製油単独燃焼や混合燃焼比率も自在の全自動運転が可能。
- 6, 食用廃油保管量は敷地内に、2000リットル以内であれば消防署に届出不要。
- 7, 精製機の操作は誰にでも運転できる全自動システムである。(廃油投入、排出は手動)
- 8, 食用油は大豆、米、向日葵、菜種、パームなど多種類の原料があり特性も違うが同一種類の燃料として利用できる。

廃油投入口



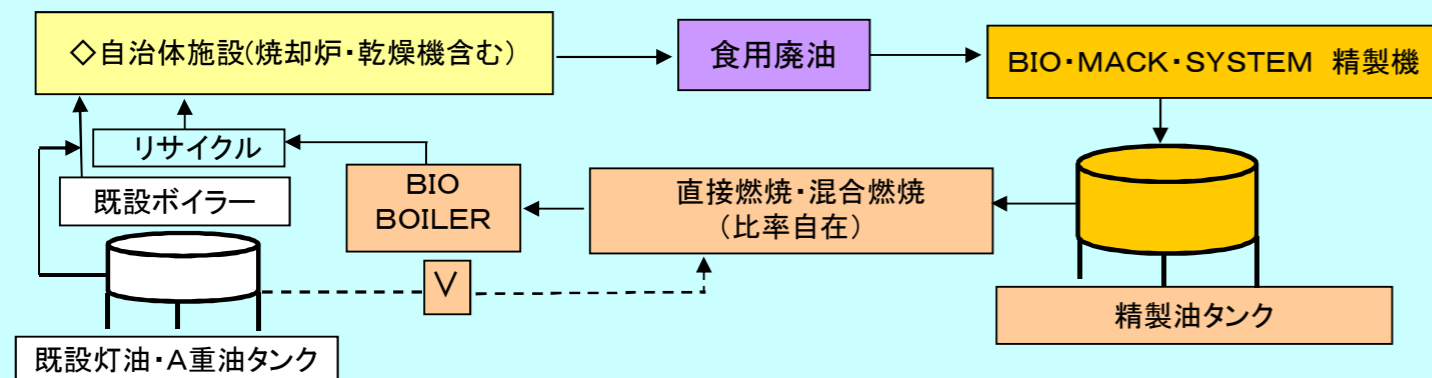
投入し易い大型口
170mm×170mm

操作盤



運転状況の確認容易
操作性を考慮

自己完結型



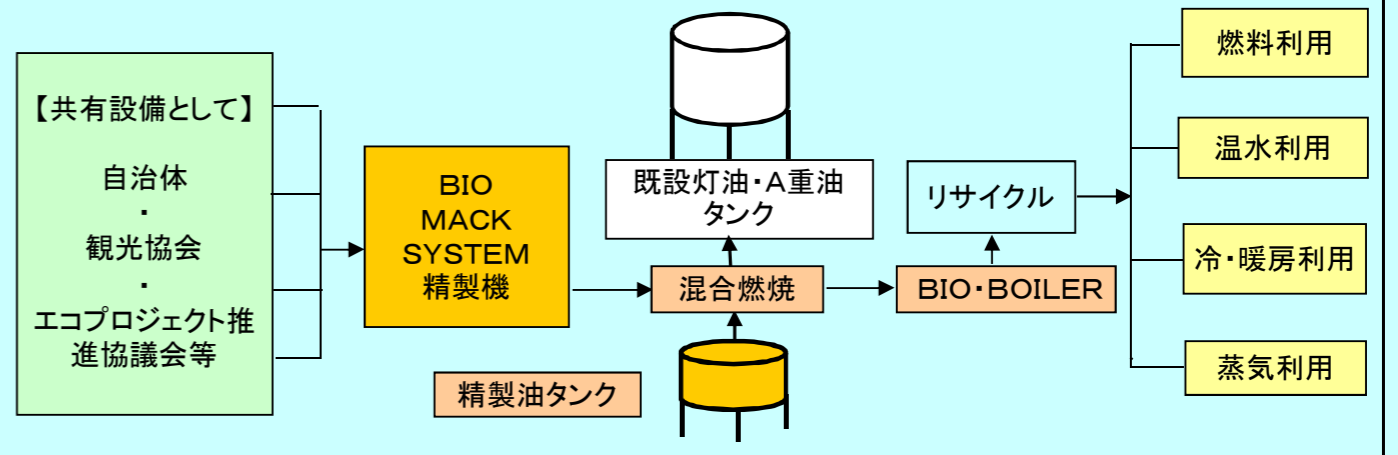
各種権利利用型



■ バイオマックシステムの導入メリット

- 1, 精製工程で副産物は発生しない。
- 2, 食用廃油からの精製油収率は100%である。
- 3, 1リットル当たりの総ランニングコストは1円程度である。
- 4, 精製油の生産量は標準機、1日8時間運転で240リットルの生産が可能である。
- 5, 精製油は完全なるカーボンニュートラル燃料であるため、燃焼してもCO2は発生しない。
- 6, 食用廃油を精製する工程なので法規制(消防法、労働安全衛生法等々)は適用されない。

地域協議会構想型



バイオマックシステム-30
装置全体外観



本装置にはオプションとして300L~1000Lのサブタンクを用意してあります。
本装置とサブタンクの組合せにより全自動運転が可能です。

300Lサブタンク参考寸法
H800×W1000×L650

地球温暖化効果ガス削減

バイオ マック システム-30標準機は下記のCO2排出量削減が可能です。

CO2削減量計算(例)

1日の生産量=240ℓ
 ○灯油・A重油CO2換算値 2.7kg-CO2/ℓ×240ℓ/日=648kg-CO2/日
 年間280日(一年間の労働日数限界日)稼働として
 648kg/日×280日/年=181,440kg-CO2/年(削減)
 ○電気使用量 0.6kw/パッチ×8パッチ/日×280日/年=1,344kw/年
 1,344kw/年×0,339kg-CO2/kwh=456kg-CO2/年(排出)
 ★181,440kg-CO2/年(1年間の削減量)-456kg-CO2/年(一年間の電気排出量)
 =180,984kg-CO2/年 =約181ton-CO2/年の削減可能